

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 49 号	2005年8月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 8月7日（日）当日暑い中活動に参加された方、誠にお疲れ様でした。18名の参加を得ました。田んぼの除草（無効分けつ抑止剤散布）、蕎麦田の草刈りや播種準備、ビオトープ全般の草刈りは秋の稲刈りまで分済み。午後 蕎麦畑の荒起こし（原田蘭会員）
- 8月11日（木）宇部市環境共生課主催の「親と子の水辺の教室」の見学会に会員4名（田村、吉富、若林、原田）にて案内を致しました。教室には親子24名と市、県職員の方8名のかたが来られました。子どもさんはやはり植物より昆虫について興味が深く、来年はカブトムシの小屋あたりの整備をしてたくさんのカブトやクワガタが現れるようにしたいと思います。
- 8月11日（木）～14日 田んぼの一連の作業（中干し、稗引き抜き、バッタやイナゴの追出し）
- 8月18日（木） 蕎麦畑の畝づくり （吉富匡会員、原田）
- 8月20日（土）借用地に例年のそば栽培のため種まきをしました。 その他、田んぼ周囲の草刈り、アサザの間引き、湿地のコナギ除去、駐車場の草刈りを15名の会員で行ないました。
- 8月20日（土）今日は厚東川にて水棲生物の採取と観察でした。隊員14名シニア2名保護者10名会員指導者8名でした。各々参加された会員の皆様お疲れ様でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

現在のところ希望はありません。

◎ 行事

- 8月27日 榎野川フォーラム発表会 発表者：西原会員、フォーラム責任者：関根会員、参加者：田村、美濃和、岡村、原田マ会員
- 9月4日（第一日曜日）の活動 作業（草刈りほか）
- 9月17日（第三土曜日）の活動 午前：作業（ ）
午後：里山自然観察隊

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

クサネムとセリ

夏の終わりの湿地には、意外と花が咲いている植物はありません。ですが、8月下旬のビオトープで、唯一花を咲かせている多数派ともいえる二種の植物をご紹介します。

クサネム

クサネムの名前の由来は、葉がネムノキのように細かい複葉で、暗くなると睡眠運動（就眠運動とも言う）をして小葉を閉じることによります。葉は小葉が20～30対からなり、先端の1葉がないので偶数です。こういう葉の付き方を「偶数羽状複葉」といいます。羽状複葉の葉を付ける植物は多いのですが、ほとんどが奇数ですから、偶数葉の複葉は珍しいといえます。花は、葉のわきから茎を出して、いかにもマメ科らしい淡黄色の蝶形花を付けます。果実も、マメ科そのものの6～8個の節のある豆果です。

クサネムとカワラケツメイは、葉の形、草丈、花期など共通する点が多く似ていて区別しにくいのですが、クサネムは一年草で、茎は中空、毛が無いいため滑らかな感触です。それに対し、カワラケツメイの

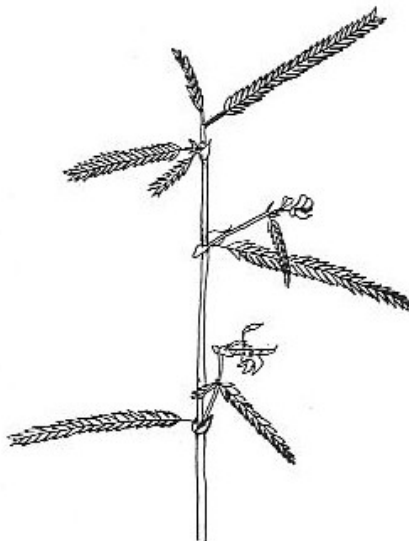
茎は中空でなくカチツとした感じで、茎や葉には毛があり、花は小さな濃い黄色で、花後の豆果は斜上して付く多年草です。ビオトープのような湿地では、100%クサネムと思ってよいです。

クサネムの就眠運動については、就眠物質（葉を閉じさせる活性物質）と覚醒物質（葉を開かせる活性物質）がそれぞれ見つかっています。ですが、なぜ夜葉を閉じるのか、ということに関しては、なかなかこれといった確定的な理由付けが為されていないようです。長い進化の歴史の中でこのような形質を確保したのでしょうか、どうして、という人間の浅はかな問いに対しては、自然はそう簡単に答えを示してくれそうにありません。

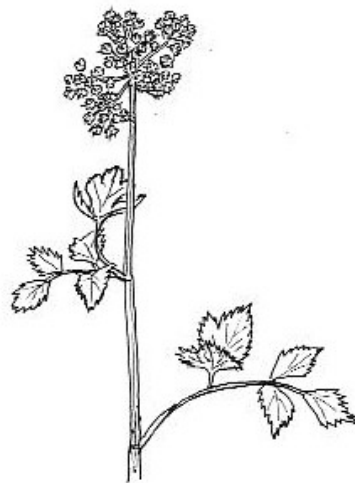
セリ

だれもが知っている春の七草ですが、夏の終わりの今ごろになって、ようやく花を咲かせています。二年目以降の休耕田では優先種になりやすい多年草で、ビオトープでも一面覆われている場所があります。セリ科の典型的な花を咲かせます。昔、カラカサバナ科と呼ばれていたことがあるように、多くの花が、一点から放射した多くの柄の先に花を付け、傘を広げたように見える散形花序をとります。セリの場合は、傘が二重になって、つまり長い柄の先からさらに短い柄がでてその先に花がつく複散形花序となります。

ニンジン、ミツバ、パセリなど、おなじみの野菜はみなセリ科で、同様な花を付け、葉っぱは同型の香りがするのが特徴です。セリ科に近縁の科としては、タラノキ、コシアブラなどの山菜で知られるウコギ科があります。花が同じような散形花序、葉は複葉で、芳香があるのは共通していますが、香りの性質は違います。セリ科はキアゲハの食草ですが、ウコギ科がキアゲハの食草になっていないことをみると、キアゲハは長い年月をかけてセリ科の植物と共進化してきたものと思われます。セリ科の植物は、香りを強くすることで、ほかの虫には食べられないように進化して来たことはたぶん間違いないでしょうが、最近進化してきた人間という動物が、その香りゆえに嗜好してしまうということまでは、想像しなかったことでしょうね。



クサネム（マメ科）



セリ（セリ科）

4. ビオトープ関連（会員の声）（西村靖子 記）

植物のことをもっと知りたいと思い、今年5月に入会しました。以降このビオトープを訪れる度、今まで見たことのなかった草花に出会い、感動します。もしかしたらこの先、本でしかその存在を知らなかったかもしれないのに、実際に本物を手にとり、においをかいだりして感じる事ができるなんて、とっても幸せだと思いました。

また作業も、これまであまり土や草にふれる生活ではなかったので、黙々と刈られた草を運んだりするのも気持ちが落ち着きます。以前、草刈り作業で大雨が降りましたが、大粒の雨の中、傘もささずにカップで雨粒を受ける機会は、そうそうなかったので、とても気持ち良かったです。

会のみなさんも、とても和やかな方達ですね。作業のことや木や草花や虫のことなど、親切に教えてくださり、不安なく、会に入ることができました。ありがとうございます。ふつつか者ですが、これからもどうぞよろしくお願いします。

今回は 藤井 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

- 7月27日 私は水遊びが一番楽しかったです。また、かぞくでいきたいと思っています。
ほんとうにビオトープはたのしいです。 わた谷なつ
希
- 7月29日 千葉から来た二年生と三年生の男の子です。ぼくたちはビオトープに来るのが一番
楽しみです。ぼくはだれでしょう? はやと、たくまです。 おもしれー
- 8月15日 山陽小野田市からきました。水車を初めて見たので感動しました。 カワムラ
- 8月16日 ぼくは今日始めてビオに来ました。あの木の橋はこわくてたまりません。
いいですね。へびもいてサバイバルっす。又来ます。 おたけやんよ
り
- 同日 大きい蛇を見て驚きました。二俣瀬っ子なのに初めてビオトープに来ました。みんなをさそってって又きます。 さえや
ん

6. 会よりの連絡事項

古くて新しい道案内

(原田満洲夫 記)

8月24日は地蔵様の縁日です。ここビオトープ市道入り口に車地の地蔵様が昭和園より移転されました。もともと 200m北側の市道側にあったものを道路事情により車地観音様の祠横に移転されていたが車地自治会協議の上、市道沿いのほうが適地であろうと決まり、今年の縁日に間に合うよう移転されたものである。観音様も祠の破損がひどくなり、日吉神社横に移転準備中である。地蔵様設置場所は林弘之会員寄贈地である。

開基設置は江戸時代の後半宝暦八年(1758年)とある(参考年「明治元年1868年」)。この年に車地地域に不幸な状況(例えば飢饉や疫病)がおこって祭られたものであろうか定かでないが、以後車地の地域が常に栄えるよう願って信仰の対象となり、又見守ってこられたものであろう。年縁日は8月24日月縁日は24日に地域の当屋周りで、お祭りがされている。

ビオトープの道案内には真に良い位置にあり、今後の案内は「県道490号線、田の小野から市道を1500mほど行ったところの右手にお地蔵様があるのでそこから右に入ればすぐ」と言えば良い。

ビオトープの活動日どうしても前を通させていただくので、今後は僅かながらでも浄財を準備しておかなくてはならない。そこで活動の安全をお祈りすることになろう。



7. 編集後記

7月、8月の自然観察隊。ビオトープ、厚東川の水棲生物の採取と観察。暑い中での水遊びいや観察は、皆いきいき楽しく目を輝かせている。網で岩の下や草影 水の流れの中を探りながら、又足を使って上手に採っている。私も初めて厚東川に入って感心しながら眺めていた。その内、水中メガネをつけたり、ずぶ濡れで……。又、採ったものに対する俣瀬券等で、カヌー、カヤックにのれる体験コーナーも用意されていた。この様に、自然の中で楽しく、遊びながら、学びながら、を体で記憶し、将来に伝えていければと、うらやましく思った。

(松本 フデ子 記)